

令和7年度第1回一関地区広域行政組合舞川清掃センター運営委員会会議録

- 1 会議名 令和7年度第1回一関地区広域行政組合舞川清掃センター運営委員会
- 2 開催日時 令和7年5月20日（火）午後6時30分から午後7時45分まで
- 3 開催場所 舞川清掃センター2階会議室
- 4 出席者
 - (1) 委員 千葉憲明会長、熊谷秀雄副会長、氏家壽栄委員、氏家一委員
氏家利明委員、氏家弘委員、吉家寅男委員、菅原徳一委員
千葉重夫委員、菅原甲一委員、小野寺啓也委員、石川誠委員
佐藤儀幸委員、菅原勝亮委員
 - (2) 事務局 佐藤正幸事務局長、菅原彰事務局次長兼一関清掃センター所長、
佐々木徹副所長兼施設第1係長、千葉聖也技師
- 5 委嘱状の交付
- 6 議 事
 - (1) 一関清掃センターに一時保管している独自基準一般廃棄物の今後の対応について
 - (2) 周辺空間放射線量測定結果、水質検査結果、埋立量の実績報告について
 - (3) 舞川清掃センター住民健康診断について
- 7 公開、非公開の別 公開
- 8 傍聴者 なし
- 9 あいさつ（事務局長）

本日はお忙しいところお集まりいただき感謝申し上げます。先程、皆様に委嘱状を交付させていただいた。ご多忙のところ委員への就任をご快諾いただき、心から感謝申し上げます。今後2年間よろしくお願いしたい。

昨年度は、舞川清掃センターに一時保管をさせていただいていた指定廃棄物について、国の放射能低減作業を実施し、指定廃棄物の指定が解除となったことから、舞川清掃センターから搬出し処分を行ったところである。これまでの皆様方のご協力に感謝申し上げます。

本日は、1つ目が一関清掃センターに一時保管している独自基準一般廃棄物の今後の対応について、2つ目が周辺空間放射線量測定結果、水質検査結果、埋立量の実績報告について、3つ目が舞川清掃センター住民健康診断について協議させていただく。このあと担当から説明するので率直なご質問やご意見をいただきたい。

最後に、今後も施設の維持管理には万全を期してまいりますので、引き続き、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

10 会長、副会長の互選

会長 千葉憲明 副会長 熊谷秀雄

(以下会長が議長を務める)

11 協議内容

- (1) 一関清掃センターに一時保管している独自基準一般廃棄物の今後の対応について
(事務局が会議資料により説明を行った。)

(質疑応答)

委 員 昨年度の協議結果を踏まえて各民区の総会で説明し、意見を集約いただいたかと思う。どのような意見が出されたか区長から報告いただきたい。

区 長 全て基準を下回っていることから埋立てもやむを得ないのではないかと、他の施設への持ち出しも難しいだろうという意見であった。

区 長 埋立てはやむを得ないだろうという意見であった。ただし、これまでどおり健康診断を継続してもらいたいという話があった。埋立てに当たっては、近隣住民への影響が出ないよう、十分な安全対策をしてほしいという話もあった。また、次の世代のことを考えると不安感はある、ということ念頭に置いていただきたいという意見もあった。

区 長 測定等を行うということで民区へ説明した結果、組合で飛灰の埋め立てを行うことから、問題ないのではないかとという意見であった。特別な意見は出なかった。

区 長 新たに発生した飛灰ではなく、独自基準値以上ということで保管を継続してきたものであり、現在は独自基準値以下であること、過去にも現在にも独自基準値を下回る飛灰を埋立てしており、各種測定において、異常は見られないことを説明したところ、埋立てを反対するような意見は出なかった。しいて言えば健康診断を継続してもらいたいという意見があった。

委 員 各区長から報告をいただいたが、大方、埋立てに反対という意見ではなかったと捉えている。積極的ではないがやむを得ないという意向であったと思う。ただし、安全には十分配慮し進めてもらいたい。また、埋立てに関して何か変化があれば報告いただきたい。

(独自基準一般廃棄物の埋立てについて了承をいただいた。)

委 員 埋立地南側の堰堤はコンクリート製ではないので、大雨が降った時に飛灰と一緒に崩れないか心配である。

事務局 堰堤を造成した時の構造計算上では問題がないとして造成した。埋立て終了後には側溝を通して雨水を滞水させにくいようにする。

委 員 集中豪雨が降った時に、埋め立てた廃棄物と一緒に土砂が川へ流れてこないか心配しているが、問題がないのであれば良い。

委 員 堰堤内に飛灰は埋立てされているのか。

事務局 堰堤内に飛灰は埋立てしていない。

委 員 それよりも懸念されるのは、埋立地上流側の沢水が流れる雨水流入口が詰まることによって、市道まで土砂や沢水が溢れてくるのではないかと心配している。現在は管理されていても、廃止後に手をかける人がいなくなった時のことを懸念している。

事務局 現在は、施設を管理している業者に枝の詰まりなどを除去してもらっている。

事務局 埋立地内の雨水は問題なく処理できており、今後、のり面が崩れるほどの降雨があるかは分からないが、上流側の沢水流入口が溢れて埋立地に流れた場合にのり面が崩れないとは限らないため、組合がきちんと管理をしていかなければならないと思っている。

委 員 万が一、大量の雨水や沢水が埋立地内に流入してきても、危険な廃棄物の外部流出はないということか。

事務局 埋立終了後の埋立地内に降った雨は、表面が難透水性土で覆われていて、側溝を流れて場外に排水されるが、上流側の沢水流入口については、確実に下流に放流しないと危険な水量になる可能性があることから、注意して管理したいと思う。

委 員 地元の方は想定外の事態も考えているため、引き続き組合でも安全な管理をお願いしたい。仮に処分場が廃止になって管理先が変わったとしても、施設を安全に保てるようにしていただきたい。

(2) 周辺空間放射線量測定結果、水質検査結果、埋立量の実績報告について

(事務局が会議資料により説明を行った。)

(質疑応答)

委 員 放流水よりも沢水の水質が悪いのはどうしてか。

事務局 放流水は排水処理をしているが、沢水は排水処理をしない水であるため、放流水よりも各測定項目の数値が高く出ている。

委 員 有機フッ素はどの項目を見たら良いか。

事務局 一般廃棄物処理施設では排水基準がないため測定していない。

委 員 他で測定している施設はあるのか。

事務局 一般廃棄物処理施設では、国の基準がないため測定されていないと思う。飲み水である水道では測定されている。

委 員 水道水として飲んでいる水と、水道水として利用している原水については測定していると聞いたことがある。

委 員 地下水で検出されていないものが放流水にあるのはどうしてか。

事務局 基準値と結果の記載方法によるところであるが、一般的な水質検査では、基準値が何mg/L以下であれば、基準値の10分の1未満という書き方をするようである。基準値が検出されないということであれば、不検出という書き方になる。

委 員 全シアン及びPCBは地下水では検出されないことという基準値に対して、放流水は何mg以下という基準値になっていることから、検出されても良いということか。

事務局 基準値的にはそのようである。

委 員 我々からすれば、何mg/L未満は少なからず検出され、不検出は全く検出されないという認識であるため、間違った認識ではないか確認であった。

事務局 未満という数値は、確実にその数値以下ではあるが、その数値を確認した時点でそれ以上詳しくは調べないことになっている。数値が細かいほど分析が大変になるため、最終的な数値まで追求しないこととしている。

事務局 3ページの空間放射線量測定について、皆様のご理解、ご協力もあり、指定廃棄物の一時保管がなくなったことから、①仮置き保管場所については令和7年度から測定を行わず、全6地点の測定とさせていただく。

(3) 舞川清掃センター住民健康診断について
(事務局が会議資料により説明を行った。)

(質疑応答)

委 員 令和6年度の受診者をもう一度伺う。

事務局 令和6年度は123名の申込みに対して115名が受診された。令和5年度は117名の申込みに対して116名が受診された。受診者数のみを比較すると、1名減という状況であった。

委 員 毎年、3月3日、4日が受診日となっているのか。

事務局 健診先の年間スケジュールが決まっており、舞川地域の割当てが3月の1週目の火曜日及び水曜日となっている。

12 その他

(議事以外の質疑応答)

事務局 屋外にある沈砂池の脇に、水利組合の揚水機場があったが、撤去したいという話があり、3月に撤去したようである。

13 担 当 課 一関清掃センター